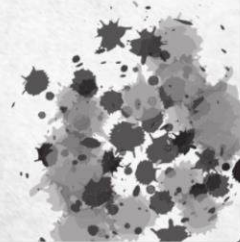




緒方貞子

～世界を変えた小さな巨人～



時代背景

今回は、史上初の女性の国連難民高等弁務官となった、緒方貞子さんについて紹介する。彼女が生まれたのは、第一次世界大戦と第二次世界大戦の狭間の時代。親の事情で外国での生活も経験した中で、友人がいるアメリカや中国から攻められる戦争を、複雑な思いで見届けていた。政治学の専門家として評価を受けたことで、国連難民高等弁務官を担うことになったのが1990年のこと。当時は冷戦が終結したのも束の間、アメリカとソ連に隠れて燻っていた領土問題や民族対立が表面化し、地域紛争が多発していた。その結果、多くの難民が生まれることになるが、そんな難民たちを救うために国連が作った組織が、国連難民高等弁務官事務所である。彼女はその組織のリーダーとして活躍した人物であるが、どんな功績を残したのだろうか。



偉人の生涯

緒方貞子 1927～2019 日本(東京) 政治学者・大学教授

Keyword 「小さな巨人」「国連難民高等弁務官」「難民の救済」

西 暦	年齢	生涯
1927	0	東京都で誕生。父は外交官で、母方の曾祖父は元首相の ^[1]]であった。
1932	5	^[2]]事件で、曾祖父にあたる ^[] が軍部に暗殺される。
		幼少期はアメリカや中国で過ごし、小学校5年生の時に帰国している。
1950年頃		日本の大学を卒業後、アメリカの大学・大学院で留学、政治学の博士号を取得。
		帰国後は政治学者として国際基督教大学准教授(1974)、上智大学教授(1980)を歴任。いずれもキリスト教系の大学で、本人もキリスト教徒(カトリック)と知られている。
1990	63	国連難民高等弁務官(UNHCR)代表が自国の外相に就任したことに伴い、空席となる。 →緒方さんが候補者に選出され、約15人の中から選抜された。
1991	64	第8代国連難民高等弁務官に就任。史上初の女性弁務官となる。
		^[3]]の発生に伴い、 ^[4]]人難民問題が深刻化。
1990年代		旧ユーゴスラビア紛争やルワンダ内戦における難民支援に尽力。
2000	73	2度の再選を果たしたのち、2000年12月31日に退任。
2003	76	国際協力機構(5))の理事長に就任。
2019	92	10月22日死去。





偉人の功績・思想

★クルド人難民を救うために

緒方さんの就任した1991年に勃発した湾岸戦争。アメリカ中心の多国籍軍がイラクを倒したことで戦争は終結したが、それまで国内で迫害を受けていたクルド人が、チャンスとばかりにイラク政権を倒そうとした。しかし、結果は失敗に終わり、再び迫害を受ける恐怖から180万人のクルド人が一斉に国外へ逃れた。そのうち40万人のクルド人はトルコ国境付近で国境を封鎖されてしまい、国外へ出られなくなり、極寒の山岳地帯で行き場を失った国内避難民が発生することになる。

当時難民の定義は「^[6] []な事情・迫害・紛争などで、^[7] []逃れざるを得なくなった人々」となっており、国内で難民同様の生活をしている^[8] []はUNHCRにおいて保護の対象ではなかった。武装蜂起したクルド人の支援を行うべきか、賛否両論の激しい議論になったが、緒方さんは人命を守ることを最優先し、彼らを保護し支援することを決断したという。さらに、ヘルメットと防弾チョッキを携え、戦時中の現地に赴くこともあった。UNHCRが紛争の現場に行くのは初めてのことで、それまでのしきたりやルールを取っ払い、UNHCRを単なる人道支援組織から紛争処理に尽力する“攻め”の組織へと変貌させたのだ。

★時代を変えた“素人”リーダー

緒方さんは政治学に精通していたとはいえ、国連の職員でもなく、政治家でもなかった。彼女が弁務官に就任するまでは、全員がヨーロッパ諸国の男性政治家であり、政治家以外も初めて、女性も初めてという人選であった。無名に近い学者を事務所の中で知っている人は当然おらず、期待もされていなかったそう。背景には、当時世界2位の国連分担金を負担していた日本の人材を迎え入れ、資金不足にあえぐUNHCRへより多くの支援を引き出したかったのでは…？という狙いもあった。

そんな素人同然のリーダーだったからこそ、過去の凝り固まった伝統やルールに縛られず、大きな決断をすることができたのかもしれない。常識的な前任者たちでは、このような変革は出来なかったかもしれない。

身長150cmの小柄な女性でありながら、誰よりも強い信念を持ち自分を貫いた彼女は「小さな巨人」と呼ばれ、国際的にも高い評価を受けている。



★今を生きるあなたへ

「私はいま、非常に日本は内向きになっていると思います。これは外国人労働者の問題もありますし、それから難民の受け入れにも問題があるのです。非常に少ない。それはやっぱり、あまりに自分たちのこと、あまりにも日本の内向きなことばかり考える、上から下まで。自分のことだけでなく、広がりをもった日本をつくっていただきたい。」

「何でも見てやろう、何でもやってみよう。そういう意気を持って、若い人には生活していただきたい。本当に人間とはどんなものなのか、どういう人がいるのか、自分の仕事はどういうものかということ、肌で感じて考えてほしい。」

「向き合って、ぶち破いていかないかね。ミッションのためにはルールを変えればいい。乗り越える方法を考えなさい。」



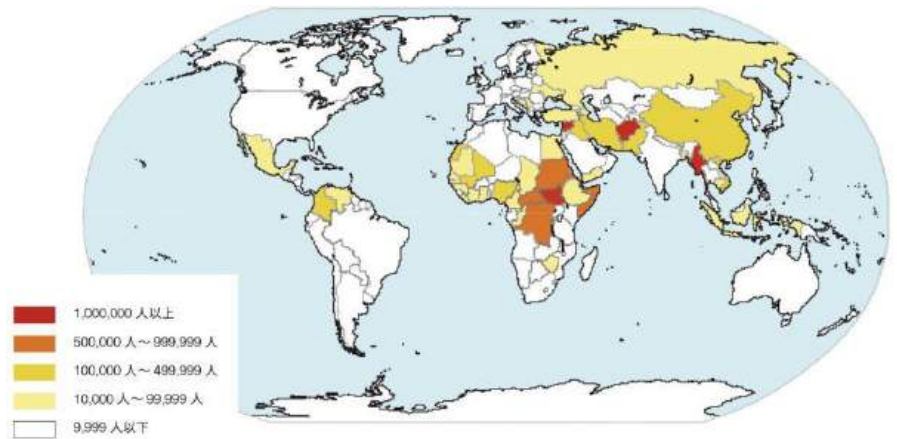
偉人から学ぶこと

★難民問題への取組

今回は難民問題について考えよう。地域紛争や民族紛争が影響し、難民の数は増加している。80年代は500万人程度だったものが、冷戦後の90年には1500万人を突破し、シリア内戦が激化した2010年以降も次第に増加している。2020年時点で、3090万人の難民が国連の支援対象となっている。他にも紛争や迫害、暴力、人権侵害などにより、故郷を強制的に離れなければならなかった人を含めると、1億人を超える。

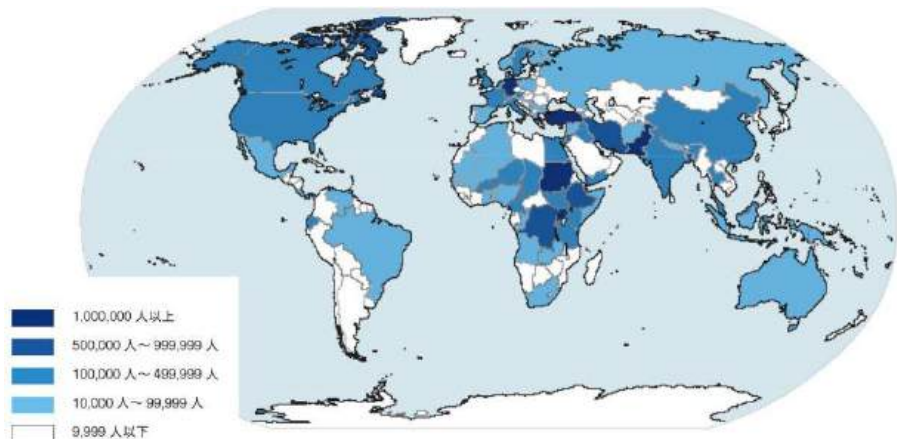
Work 難民問題の現状を調べよう

Q1, 難民が発生している国を図示した地図を見て、どんな傾向が読み取れるでしょうか？



現在最も多い国→^[9]] : 2011年から内戦が激化したことにより多くの難民を生み出した
 その他の主な国々→^[10]] : ミャンマー西部に暮らすイスラム系の少数民族
 経済が深刻な南米のベネズエラ、タリバンが再び権力を握ったアフガニスタン
 内戦がおこった南スーダン、ロシアとの侵攻の影響によるウクライナなど

Q2, 難民を受け入れている国を図示した地図を見て、どんな傾向が読み取れるでしょうか？



^[11]] が最も多く、先進国ではドイツやフランス、アメリカが多くの難民を受け入れている。
 ドイツが100万人超えの難民を受け入れているのに対し、日本は1900人(2018年データ)となっている。

Think🗨️ 日本の難民受け入れについて考える

日本は難民の受け入れが著しく低い国となっている。

POINT 日本の難民受け入れ数が少ない理由

- ①難民の基準が曖昧で、国によって異なる
- ②難民である証拠を重視しすぎている
- ③政治や社会のしくみの中で、難民への配慮を怠ってきた



①難民条約の基準は明確でなく、各国によって幅があるのが現状です。日本は認定の基準が厳しく、低い認定数にとどまってしまう。その理由として②が関わってきます。日本は手続きにおいて証明書や証拠を重視する傾向がありますが、難民はそれらを持っていません。自分の身元がばれれば住んでいる場所へ強制送還されてしまうため、身分証を偽装したり、飛行機のトイレでパスポートを流してしまうなどして、自分の身分がばれないことに努めます。そんな相手に対して、難民の証拠は？なんて聞いても持っている訳がありません。そもそも難民に対する考え方を改める必要があります。そして最後の③は私たちにも関わる話です。日本は島国であり、他国から人が逃れてくるという事例が少なかった国です。難民が発生する国からも遠く、難民問題に対して他人事のようにとらえてきました。その結果、政治面や社会のしくみの中に、難民について考える時間が足りていなかったのは間違いないでしょう。受け入れ体制は整っておらず、受け入れようとする姿勢も不十分な状態です。経済的にも治安も比較的安定した国として、どのような国際貢献ができるのかを考えていかなければなりません。

Q,日本として難民問題にどのように関わっていくべきでしょうか？その後の影響なども想像して書いてみましょう。

自分の考え

他者の考え

★私たちができること

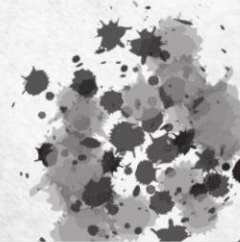
直接的に出来ることは、関連した仕事に就く、ボランティアに関わる、寄付活動に協力するなどのことがあるが、知らないことには行動に移すことができない。個人的には、寄付をしても何に使われているかわからないと継続しにくいと思うので、広報誌やメルマガを通して自分の寄付がどんな活動に役立ったかが目に見える形でわかるような団体がおすすです。

人間が生きている限りは、いろんな試みが続けていくと思うんです。その中で、日本も立派な、いろんな形で、いい考え方、いい試み、いろんな幸せというものを表に出して、みなさんを引っ張っていける人々と国であってほしいなと思っております。



緒方貞子

～世界を変えた小さな巨人～



時代背景

今回は、史上初の女性の国連難民高等弁務官となった、緒方貞子さんについて紹介する。彼女が生まれたのは、第一次世界大戦と第二次世界大戦の狭間の時代。親の事情で外国での生活も経験した中で、友人がいるアメリカや中国から攻められる戦争を、複雑な思いで見届けていた。政治学の専門家として評価を受けたことで、国連難民高等弁務官を担うことになったのが1990年のこと。当時は冷戦が終結したのも束の間、アメリカとソ連に隠れて燻っていた領土問題や民族対立が表面化し、地域紛争が多発していた。その結果、多くの難民が生まれることになるが、そんな難民たちを救うために国連が作った組織が、国連難民高等弁務官事務所である。彼女はその組織のリーダーとして活躍した人物であるが、どんな功績を残したのだろうか。



偉人の生涯

緒方貞子 1927～2019 日本(東京) 政治学者・大学教授

Keyword 「小さな巨人」「国連難民高等弁務官」「難民の救済」

西 暦	年齢	生涯
1927	0	東京都で誕生。父は外交官で、母方の曾祖父は元首相の ^[1] 犬養毅]であった。
1932	5	^[2] 五・一五]事件で、曾祖父にあたる ^[1] が軍部に暗殺される。
		幼少期はアメリカや中国で過ごし、小学校5年生の時に帰国している。
1950年頃		日本の大学を卒業後、アメリカの大学・大学院で留学、政治学の博士号を取得。
		帰国後は政治学者として国際基督教大学准教授(1974)、上智大学教授(1980)を歴任。いずれもキリスト教系の大学で、本人もキリスト教徒(カトリック)と知られている。
1990	63	国連難民高等弁務官(UHCR)代表が自国の外相に就任したことに伴い、空席となる。 →緒方さんが候補者に選出され、約15人の中から選抜された。
1991	64	第8代国連難民高等弁務官に就任。史上初の女性弁務官となる。
		^[3] 湾岸戦争]の発生に伴い、 ^[4] クルド]人難民問題が深刻化。
1990年代		旧ユーゴスラビア紛争やルワンダ内戦における難民支援に尽力。
2000	73	2度の再選を果たしたのち、2000年12月31日に退任。
2003	76	国際協力機構(⁵ JICA)の理事長に就任。
2019	92	10月22日死去。



偉人の功績・思想

★クルド人難民を救うために

緒方さんの就任した1991年に勃発した湾岸戦争。アメリカ中心の多国籍軍がイラクを倒したことで戦争は終結したが、それまで国内で迫害を受けていたクルド人が、チャンスとばかりにイラク政権を倒そうとした。しかし、結果は失敗に終わり、再び迫害を受ける恐怖から180万人のクルド人が一斉に国外へ逃れた。そのうち40万人のクルド人はトルコ国境付近で国境を封鎖されてしまい、国外へ出られなくなり、極寒の山岳地帯で行き場を失った国内避難民が発生することになる。

当時難民の定義は「^[6] **政治的**」な事情・迫害・紛争などで、^[7] **祖国から国外へ**」逃れざるを得なくなった人々」となっており、国内で難民同様の生活をしている^[8] **国内避難民**」はUNHCRにおいて保護の対象ではなかった。武装蜂起したクルド人の支援を行うべきか、賛否両論の激しい議論になったが、緒方さんは人命を守ることを最優先し、彼らを保護し支援することを決断したという。さらに、ヘルメットと防弾チョッキを携え、戦時中の現地に赴くこともあった。UNHCRが紛争の現場に行くのは初めてのことで、それまでのしきたりやルールを取っ払い、UNHCRを単なる人道支援組織から紛争処理に尽力する“攻め”の組織へと変貌させたのだ。

★時代を変えた“素人”リーダー

緒方さんは政治学に精通していたとはいえ、国連の職員でもなく、政治家でもなかった。彼女が弁務官に就任するまでは、全員がヨーロッパ諸国の男性政治家であり、政治家以外も初めて、女性も初めてという人選であった。無名に近い学者を事務所の中で知っている人は当然おらず、期待もされていなかったそう。背景には、当時世界2位の国連分担金を負担していた日本の人材を迎え入れ、資金不足にあえぐUNHCRへより多くの支援を引き出したかったのでは…?という狙いもあった。

そんな素人同然のリーダーだったからこそ、過去の凝り固まった伝統やルールに縛られず、大きな決断をすることができたのかもしれない。常識的な前任者たちでは、このような変革は出来なかったかもしれない。

身長150cmの小柄な女性でありながら、誰よりも強い信念を持ち自分を貫いた彼女は「小さな巨人」と呼ばれ、国際的にも高い評価を受けている。



★今を生きるあなたへ

現場主義

「私はいま、非常に日本は内向きになっていると思います。これは外国人労働者の問題もありますし、それから難民の受け入れにも問題があるのです。非常に少ない。それはやっぱり、あまりに自分たちのこと、あまりにも日本の内向きなことばかり考える、上から下まで。自分のことだけでなく、広がりをもった日本をつくっていただきたい。」

何でもしてやろう

「何でも見てやろう、何でもやってみよう。そういう意気を持って、若い人には生活していただきたい。本当に人間とはどんなものなのか、どういう人がいるのか、自分の仕事はどういうものかということ、肌で感じて考えてほしい。」

危機や難局は乗り越えるためにある

「向き合って、ぶち破いていかないとね。ミッションのためにはルールを変えればいい。乗り越える方法を考えなさい。」



偉人から学ぶこと

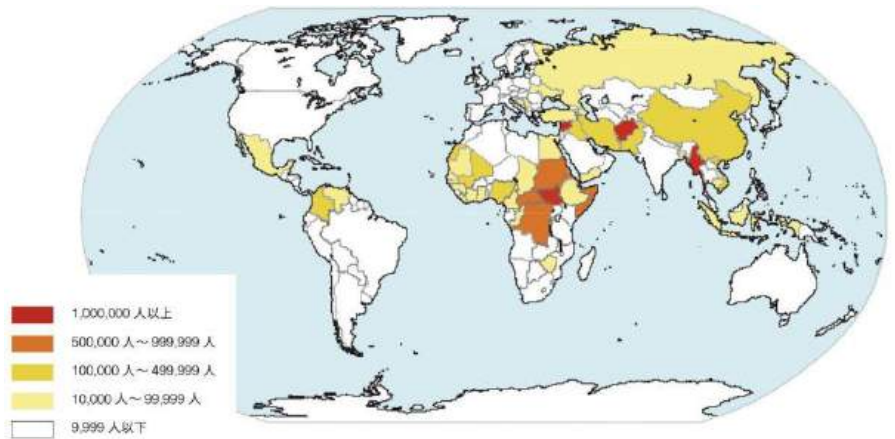
★難民問題への取組

今回は難民問題について考えよう。地域紛争や民族紛争が影響し、難民の数は増加している。80年代は500万人程度だったものが、冷戦後の90年には1500万人を突破し、シリア内戦が激化した2010年以降も次第に増加している。2020年時点で、3090万人の難民が国連の支援対象となっている。他にも紛争や迫害、暴力、人権侵害などにより、故郷を強制的に離れなければならなかった人を含めると、1億人を超える。

Work 難民問題の現状を調べよう

Q1, 難民が発生している国を図示した地図を見て、どんな傾向が読み取れるでしょうか？

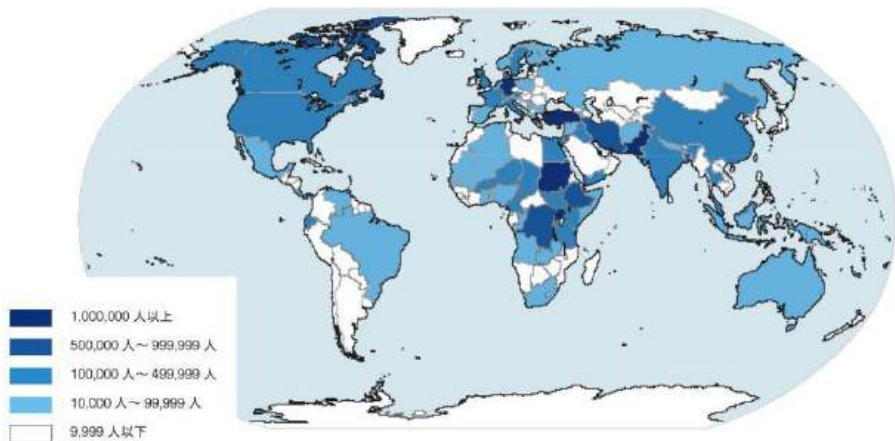
- アフリカに集中
- 中東に多い国がある
- 中国やロシアのような先進国にも存在している



現在最も多い国→^[9] **シリア**] : 2011年から内戦が激化したことにより多くの難民を生み出した
 その他の主な国々→^[10] **ロヒンギャ難民**] : ミャンマー西部に暮らすイスラム系の少数民族
 経済が深刻な南米のベネズエラ、タリバンが再び権力を握ったアフガニスタン
 内戦がおこった南スーダン、ロシアとの侵攻の影響によるウクライナなど

Q2, 難民を受け入れている国を図示した地図を見て、どんな傾向が読み取れるでしょうか？

- 発生が多い地域の近くに受入国も多い
- アメリカやヨーロッパに多そう
- 日本は受け入れが少なそう



^[11] **トルコ**] が最も多く、先進国ではドイツやフランス、アメリカが多くの難民を受け入れている。
 ドイツが100万人超えの難民を受け入れているのに対し、日本は1900人(2018年データ)となっている。

Think🗨️ 日本の難民受け入れについて考える

日本は難民の受け入れが著しく低い国となっている。

POINT 日本の難民受け入れ数が少ない理由

- ①難民の基準が曖昧で、国によって異なる
- ②難民である証拠を重視しすぎている
- ③政治や社会のしくみの中で、難民への配慮を怠ってきた



①難民条約の基準は明確でなく、各国によって幅があるのが現状です。日本は認定の基準が厳しく、低い認定数にとどまってしまう。その理由として②が関わってきます。日本は手続きにおいて証明書や証拠を重視する傾向がありますが、難民はそれらを持っていません。自分の身元がばれれば住んでいる場所へ強制送還されてしまうため、身分証を偽装したり、飛行機のトイレでパスポートを流してしまうなどして、自分の身分がばれないことに努めます。そんな相手に対して、難民の証拠は？なんて聞いても持っている訳がありません。そもそも難民に対する考え方を改める必要があります。そして最後の③は私たちにも関わる話です。日本は島国であり、他国から人が逃れてくるという事例が少なかった国です。難民が発生する国からも遠く、難民問題に対して他人事のようにとらえてきました。その結果、政治面や社会のしくみの中に、難民について考える時間が足りていなかったのは間違いないでしょう。受け入れ体制は整っておらず、受け入れようとする姿勢も不十分な状態です。経済的にも治安も比較的安定した国として、どのような国際貢献ができるのかを考えていかなければなりません。

Q,日本として難民問題にどのように関わっていくべきでしょうか？その後の影響なども想像して書いてみましょう。

自分の考え

他者の考え

★私たちができること

直接的に出来ることは、関連した仕事に就く、ボランティアに関わる、寄付活動に協力するなどのことがあるが、知らないことには行動に移すことができない。個人的には、寄付をしても何に使われているかわからないと継続しにくいと思うので、広報誌やメルマガを通して自分の寄付がどんな活動に役立ったかが目に見える形でわかるような団体がおすすです。

人間が生きている限りは、いろんな試みが続けていくと思うんです。その中で、日本も立派な、いろんな形で、いい考え方、いい試み、いろんな幸せというものを表に出して、みなさんを引っ張っていける人々と国であってほしいなと思っております。